



目次 01 歴史文化学科の活動 02 歴らぼ活動報告

## 01 歴史文化学科の活動

### 鳴海ゼミ巡検@大阪

私たち鳴海ゼミは、2021年12月6日、大阪くらしの今昔館、天神橋筋商店街、大阪天満宮、造幣博物館、中央公会堂、中之島図書館などを巡った。そのうち特に印象に残った今昔館を紹介する。その常設展では昔の大阪の暮らしや建物などが展示されており、大阪万国博覧会などの建物がパリの街並みを参考に作られた点が興味深かった。また、特別展「大工頭中井家伝来 茶室起こし絵図展」では、多くの茶室の起こし絵図が展示されていた。依頼主や大工により様々な茶室があることを知り、それぞれが茶室の何を尊重したかを考えると、とても興味深く感じた。そして「茶を飲む」という行動の意図をここまで突き詰めていくのはとてもロマンがあると感じた。(3回・石川省吾)



### 高田ゼミ遠足@奈良・明日香村



2021年11月23日、高田ゼミは遠足で日本の古都、奈良・飛鳥に行きました。そこは、当時の雅な雰囲気が出てくるようで、落ち着かせる雰囲気を持っている魅力的な地でした。そのような中、極彩色の壁画で有名な高松塚古墳や日本最古の仏像がある飛鳥寺、日本最古の和歌集である万葉集の資料がある奈良県立万葉文化館等を訪れました。どれも歴史深い飛鳥を彩る素晴らしい場所で、それぞれに異なる魅力がありました。昼には、奈良名物の柿の葉寿司を高松塚古墳のある歴史公園で食べました。今回の経験を、これからの私たちの学びや生き方に活かしていきたいと思っています。(3回生・平松万奈)

歴らぼ通信の刊行は、これで15号となりました。歴らぼ通信では、歴史文化学科における様々な活動を紹介しています。通信に記載される記事の多くは、ホームページ「歴らぼのWEBサイト」(<http://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun>)でも紹介していますので、そちらもご覧下さい。各記事を書いた学生の年数は記事の時期に合わせています。

## 東谷ゼミ遠足@奈良

東谷ゼミでは、2021年11月23日、奈良に遠足に行き、郡山城や東大寺、春日大社などを訪れました。少し肌寒く感じましたが、紅葉も楽しみつつ、良い時期に行くことができました。奈良公園の紅葉は美しく、シカとの触れ合いも楽しかったです。祝日で多くの人が観光していたので、あえて別ルートで巡り、戒壇堂など知る人ぞ知る場所を訪れました。先生の案内がないと行かない場所ばかりで、普段とは違う新鮮なかたちで巡りました。本来ならゼミ旅行の時期でしたが、今回は遠足を通じてゼミ生一同楽しい時間を過ごしました。(3回生・樹岡明良)



## 中辻ゼミ巡検@たつの市



2021年10月23日、私たち中辻ゼミは兵庫県たつの市を訪れました。たつの市には何かあると思いますか？ 伝統的建造物群保存地区という歴史ある街や童謡「赤とんぼ」の発祥の地として知られています。「赤とんぼ」の裏話的なエピソードとして、作者の三木露風が初めに作った歌詞は「夕焼け小焼けの山の空」で、後に「山の空」を「赤とんぼ」に変えたことを、案内して頂いた石原さんからうかがいました。その他、有名な薄口醤油に関する資料館で歴史や製造法を学びました。うどんスープで有名なヒガシマル醤油の本社も、たつの市にあります。以上、たつの市の紹介でした！（3回生・松本潤）

## 東谷ゼミ巡検@香雪美術館

2021年10月8日、東谷ゼミで香雪美術館へ展示見学に行きました。美術館では刀剣がメインの展覧会が開催されており、様々な時代の刀剣が展示されていました。刀剣には姿や地金、刃文など、それぞれに異なる特徴があるのでじっくりと見れば見る程新しい発見があって楽しいです。また、刀剣以外にも刀装具が展示されていました。それぞれに精巧な細工が施されており、その中でも秋の昆虫が描かれた鍔が印象的でした。久々の博物館見学、とても楽しく勉強になりました。次のお茶をメインにした展覧会にも、是非行ってみたいです。(3回生・町田和香奈)



私は、2021年9月14日に図書館の貴重書室の整理を手伝いました。図書館が博物館学芸員課程の履修生を募集し、貴重な機会と感じて参加しました。2階の九鬼周造文庫室と4階書庫を往復し本を移動しました。文庫室は博物館のように温湿度や害虫管理が施された部屋でした。博物館実習と同様、本に触る前は手を洗い、手の脂や汚れをつけないよう司書の方から指示されました。文庫室と書庫には厚い本が多いため、運ぶのが大変でした。また、古い本を開く際には、表紙と内部のページが外れないように慎重に行うことも、実習と共通していました。最も印象に残ったのは、シェイクスピアのセカンド・フォリオ（1632年）を見たことです。非常に貴重なもので、取り扱いにとっても神経を使いました。今回、司書の仕事は学芸員と共通している点も多いと気づくことができ、有意義な時間となりました。（4回生・船岡有梨沙）



### 西洋史史料研究Ⅳ（高田ゼミ）：19世紀イギリスの労働者階級の朝食を体験する



2021年度「西洋史史料研究Ⅳ」では近代イギリスの労働者階級の生活を研究した『Round About a Pound a Week』を読んでいます。この日は史料にでてきた“porridge（ポリッジ）”を作り食べました。ポリッジは栄養価の高い主食ですが、実際労働者階級の人々はあまり食べていなかったようです。それもそのはず、手間もかかるし、たくさんの甘味料がないと食べられませんでした(笑)。体験を通して歴史を学ぶとても良い機会となりました。（文：2回生・梶原咲良菜；撮影：2回生・村田愛誠）

### 第20回：九州西洋史学会若手部会に参加（高田ゼミ）

2021年11月28日、高田ゼミの私達は、第20回九州西洋史学会若手部会に参加しました。昨年と同様に、今年もコロナ禍のためzoomで開催されました。今年は4大学から9人の報告者が集まり、高田ゼミからは木嶋悟詞・川中奈々子・三谷晃弘・大下隼平の4人が発表しました（発表順）。公の場で自分の読んだ本を発表することは初めての経験で、準備する過程で、論証の難しさ、研究史的位位置や批判の重要性などを学ぶことができました。さらに、他の報告者の発表から自分の未熟さを痛感し、自分にとっても貴重な機会になりました。（2回生・木嶋悟詞）



## 02 歴らぼ活動報告

### 「古絵図に何がかかかれている？：絵図にみる池田市域」展の見学

私たち地図班は、2021年12月1日、池田市立歴史民俗資料館での特別展「古絵図に何がかかかれている？：絵図にみる池田市域」を見学しました。その内容は、池田市を中心とする北摂地域の絵図を展示するものです。大型の元禄期の池田村絵図などが、床の台上に広げて展示され、とても新鮮に感じました。その絵図には建物の配置等の情報が細く記され、当時の池田の繁栄した様子がよく分かります。顧問の鳴海先生が関連講演の打ち合わせで訪問した際も同行したので、準備作業も見学できました。私が住む北摂地域について、今と昔を比較するという貴重な経験となりました。(2回生・西村太希)



### 歴かふえ 11：尾崎真理先生



2021年12月17日、第11回歴かふえを歴文ラボラトリにて開催しました。講師の尾崎真理先生は「下張り文書と江戸時代の女性」というタイトルで、下張り文書として発見された緒方洪庵の妻・八重の手紙をもとにお話しされました。手紙には洪庵亡き後、懸命に動く八重の姿や心の内が書かれています。しかしこの手紙は下張り文書として使われたため、本来なら決して表に出るものではありませんでした。これを踏まえて「裏で動いている女性の姿を文献から読み取ることは難しい。しかし、隠れているだけでそこに“女性”はいるのではないだろうか。」と話されました。この言葉は、ジェンダー史を研究する私にとって、とても印象深いものでした。(3回生・徳留亜美)

### 歴かふえ 12：西田祐子先生

第12回の歴かふえ(2022年1月13日開催)は、西田祐子先生による、唐代史史料の編纂についてのお話でした。その内容は、唐の正史のひとつとしてこれまで使用されてきた『新唐書』が、編纂の過程で『旧唐書』などの書物の引用が混じったり、順番があべこべになってしまっているというものでした。研究のもととされてきたものが、『新唐書』を編纂した宋時代の著者の認識が被さるかもしれないという発見にとっても驚きました。新たな知見が得られて勉強になりました。(3回生・出淵優衣)



編集：徳留亜美(代表・3回生)・出淵優衣(3回生)・畑匡洋(2回生)・佐藤葵生(1回生)・鳴海邦匡  
発行：甲南大学文学部歴史文化学科  
発行日：2022年2月4日 連絡先：〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 TEL078-435-2874(学科事務)